

すべては子供たちの笑顔のために

東信教育事務所

令和5年 7月27日

〒384-0006

小諸市与良町6-5-5

Tel.0267-31-0251

Fax.0267-31-0140



バックナンバーはこちらから

響

ひびき

Vol.3



Hibiki vol.3「次につなげる」

- “授業から学ぶ”
 - ・ 「わかる」と「できる」を関連付けて
 - ・ 「交流及び共同学習」におけるICTの活用
- “研修会の窓”
 - ・ これからの私の実践につなげる
～初任研 教師力向上研修1～
- “考える部屋”
 - ・ 明日の授業改善と次のテストにつなげる
～中学校 外国語テスト改善研修会～
- “生涯学習課より”
 - ・ 社会教育と学校教育との連携を目指した取組

やってきたこと

見えてきたもの

次につなげるために

今、できること



授業から学ぶ

(小学校4年・体育)
「ゲーム
(ネット型ゲーム)」



「わかる」と「できる」を関連付けて ～「わかる」ことで友達とつながり「できる」に向かう～

A小学校のB先生は、「わかった」ことをもとに子供が自ら運動の課題を見付け、友達と解決する活動を通して、「できる」に向かって試行錯誤していく姿を願いました。単元の前半を紹介します。

B先生は、目指すゲーム(ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム)の様相や動きのイメージ、自己の実態、解決の方法等、子供たちが何を「わかる」のかを以下のように整理し、子供たちと共有していきました。

- ① 目指す動きのイメージ(模範動画)、ゲームを通しての願い(試しのゲーム)
- ② 運動の行い方など具体的なポイント(資料や映像、子供たちの気付き)
- ③ 自己の実態と課題(自己の動画撮影、模範動画との比較)
- ④ 課題を解決するための方法(考えていく視点、練習方法)

「わかった」ことをもとに、自己の課題を見付け、「できる」に向かって友達と解決していきように、友達とできればえや気付きなどを伝え合う活動を設定しました。

自己の実態や課題が「わかる」

解決の見通しが「わかる」

ボールが上に飛んでいくんだよね。

ボールの真ん中じゃなくて、下に手が当たってない？

手が当たる角度が変わってきたから、前に飛んでいるのかも。

あ、だから、体の少し前で打つポイントがあるのかな。



お手本のように、ボールの真ん中に当たると良さそうだね。

この位置だよ。

「わかった」ことをもと
に友達とつながる



上に飛んでいけなくなってきた！

前より真っ直ぐ前に飛んでいるよ。

「わかる」がつながる

自己の変容が「わかる」

子供たちは「わかった」をもとに、課題を解決するために考えたことを友達と伝え合っていました。「できる」に向かっていることを感じながら、理解を伴った「わかる」になっていく子供たちの姿からは、運動の楽しさや喜びを味わう様子がうかがえました。



授業から学ぶ

小学校3学年
図画工作科
「くるくるランド」
(鑑賞)



「交流及び共同学習」におけるICTの活用 ～特別支援教育におけるICT活用の視点を基に～

特別支援学級在籍児童生徒の実態等に応じて交流学級で生活や学習を行う「交流及び共同学習」には、教科等のねらいを達成することを目的とする共同学習の側面があります。A先生は教科等のねらいに迫るためにICTを活用しました。

特別支援教育におけるICT活用の2つの視点

視点1 教科等又は教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするために

視点2 個々の実態等に応じた自立活動の視点

障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するために



学びの充実につながる
ICTの活用場面事例



A先生

【教科のねらい】

互いの作品について感じたり、考えたりしたことを伝え合うことで、その子の見方や感じ方を広げたいな。

視点1 作品について感じたり、考えたりしたことを画像に書き込んだものを、送信機能を用いて互いに送ったり、返信したりする。



知障学級在籍のBさんは、友達作品に対するコメントを送信した後、すぐに友達から送信されたコメントを見ました。Bさんはそれらのコメントを声に出して読んだ後、笑顔浮かべながら「ありがとう」「暗くなるところがいいってことね」とつぶやいていました。

その後、互いの作品のよさについて、さらにグループで伝え合う場面でも、暗くなっている部分の工夫のよさが話題にあがりました。Bさんは「壁を黒く塗っただけで、もっと暗くなるように黒い折り紙で屋根みたいなものを付けたんだよ」と話しました。事前のコメントから自分の工夫のよさに気づき、その工夫を具体的に言葉で伝えることができました。友達から「その工夫いいね」という言葉をたくさんもらい、笑顔でうなずきました。

視点2 タブレットのカメラで撮影した友達の作品の画像に、コメントを直接書き込んだり、付箋を貼ったりする機能を用いる。

【自立活動を視点とした個のねらい】

文字を書く抵抗感をなくすことで、友達作品について感じたり、考えたりしたことを表出できるようにしたいな。



A先生

自・情障学級在籍のCさんは、友達作品を見ながら、何を書けばよいか分からず悩んでいました。先生が言葉を引き出そうと声がけをしますが、なかなか口に出せません。しばらくすると、Cさんは「けしきがきれい」と書き込み、「これでいい？送る？」と先生に確認しました。「けしきがきれい」という言葉は、Cさん自身が感じ、考えたことです。また、タブレットの扱いに慣れているので、その言葉を抵抗なく書き込んでいました。コメントを送ったことで自信がついたのか、それ以降、Cさんはつぶやきが増え、自分から次の友達作品について考えていました。



「交流及び共同学習」では、自立活動を視点とした個のねらいを達成しつつ、教科のねらいの達成を目指すことが大切です。児童生徒が、それらのねらいを達成できるよう、実態に応じて積極的にICTを活用するとともに、「特別支援教育におけるICT活用の2つの視点」からの授業改善を進めましょう。



研修の窓



これからの私の実践につなげる ～初任研 教師力向上研修Ⅰ(オンライン研修)～

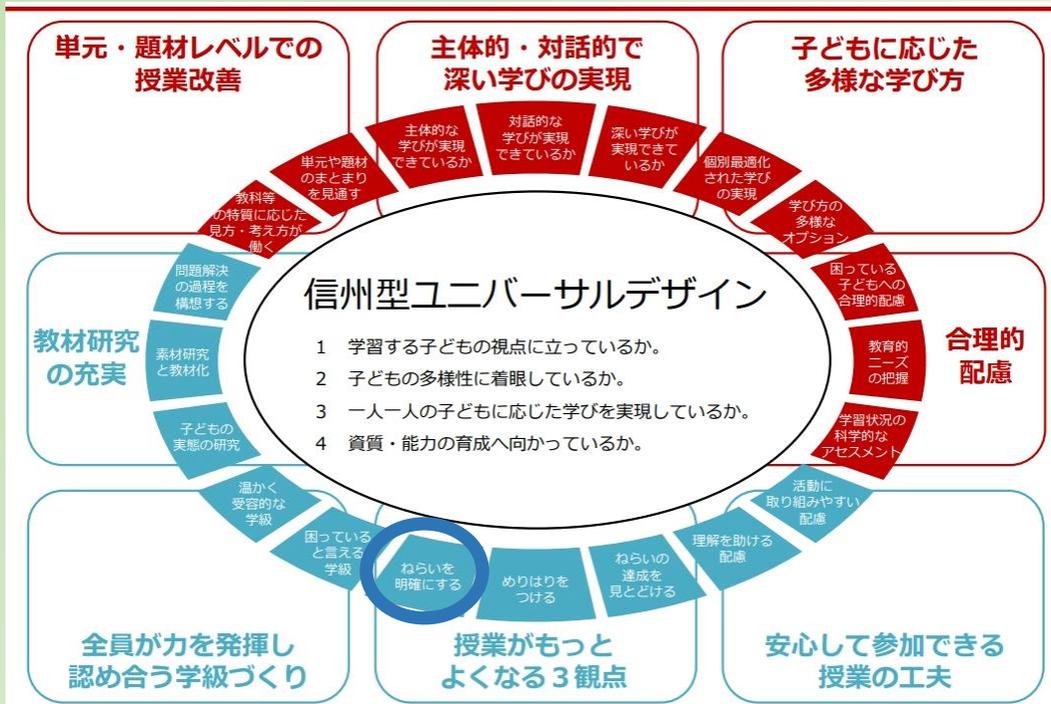
6月7日に行われた初任研「教師力向上研修Ⅰ」では、信州型ユニバーサルデザイン(以下 信州型UD)の8つの窓口や20の着眼点をもとに、子供の姿から自分の実践を振り返り、自己課題を設定しました。



A先生

子供たちが授業に集中しなくて、困っています。子供たちが熱中できる授業にするためには、どうしたらよいのだろう。

研修：信州型UDをもとに、授業改善の視点を探ります



子供の視点に立って授業を振り返ると、私は「ねらいを明確にする」ことに課題がありそうです。子供たちが授業で何をするのかがはっきりと分からなかったから、集中できなかったのかもしれませんが。先生方はこのことにかかわって、授業で大切にしていることはありますか？

私は毎時間、学習問題を必ず板書して、子供たちがその時間に考えることを分かりやすくしているよ。



B先生

自分の授業を振り返ると、子供たちが「なぜだろう」「これをやってみたい」など、疑問や思いをもてた時に、熱中して取り組んでいるなあ。



C先生



なるほど。B先生、C先生の話聞いて、子供たちが熱中して授業に取り組めるように、子供たちの疑問や思いを大切に授業の学習問題を作ることを自己課題として明日から実践していこうと思います。ありがとうございました。

信州型UDの視点をもとに子供の姿から自分の実践を振り返ることで、これからの実践につなげる自己課題が明確になっていきます。試行錯誤を繰り返しながら、焦らず、慌てず、なりたい自分に近づいていきましょう。



信州型UD研修シリーズはこちらからご覧いただけます

https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/gakko/sonota/shinshu_ud.html



明日の授業改善と次のテストにつなげる ～中学校外国語テスト改善研修会をきっかけにして～

令和元年度以来の全国学力・学習状況調査。問題の分析を通して、本調査に込められたメッセージを読み解き、明日からの授業やテスト改善に向けて、教科会で考えてみてはどうでしょうか。

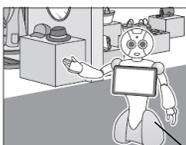


教科主任A先生

今日の教科会ではこの問題を解いて、気付いたことを伝え合いながら、授業やテストにどう生かしていくか考えましょう。

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書く問題になっている。

学習指導要領によると、要点を捉えるとは、「**説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、含まれている複数の情報の中から、書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えること**」とある。授業で生徒に「要点」とは何かを伝える必要があるな。

書かれている内容そのものを問う（知識・技能の）問題ではなく、「**最も伝えたいこと**」を選ぶ、思考・判断・表現を問う問題だ。

そう考えると前回の定期テストは知識・技能の問題が多かったかな。

学習者用端末に送信する設定だね。

↓
普段の授業でも似たような活用はできそう。

AIやロボットに関する社会的な話題を題材にしている。

↓
帯活動のSmall Talkで社会的な話題を扱ってみよう。

賛成か反対か、さらにその理由も求められている。

↓
読んだ上に、自分の考えを述べる必要がある。教科書を読んで、Q&Aをするだけでなく、「**What is the main point of this story?**」とペアでやり取りする言語活動を設定することも必要だね。

(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までのの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。



調査問題、解説資料はこちら

全国学力・学習状況調査の問題の出題の意図、把握しようとしている力、その問題が伝えようとしているメッセージなどを紐解くことで、授業改善・テスト改善の方向性が見えてきそうですね。ぜひ教科会でも話題にしてみてください。（お茶でも飲みながら）



社会教育と学校教育との連携を目指した取組

今回は佐久地区社会教育委員連絡協議会研修会で発表があった佐久穂町の「むかたん友の会」のことを紹介します。

「佐久穂町ふるさと遺産収蔵館」
→愛称「むかしたんけん館」
→略称「むかたん」

むかしたんけん館ってどんなところ？

佐久町と八千穂村の合併に伴って使われなくなった旧八千穂中学校の校舎に、昔懐かしい農具や民具、鉋物標本、昆虫標本などが収蔵されています。農具や民具は実際に使ってみることができます。

むかたんは「社会学融合」を目指します

社会教育と学校教育が連携し、それぞれの機能を相乗的に発揮し、生涯にわたって実践的・創造的な学びができ、学びを支える様々な体験活動の機会と場を提供することが必要と考えています。そこから、子どもから大人まで、自ら学び、自ら考え、自ら行動できる心豊かな人間性を育み、生涯の全人的な力である「生きる力」の育成を図ることを目指します。
(発表資料より)

道具を使って壊れたら直せばいいだけです。体験を通して現在の生活のよさを感じたり、昔の懐かしさを楽しんだり、大人から子どもまで幅広い来館者が楽しめるようにとの願いから、道具に触れられるようにしてあります。



新海館長

小中学生が大人に教えてくれました

研修会では、小学校のクラブ活動や中学校の地域交流企画で昔の道具に触れた児童や生徒が、道具の使い方を実際に動かしながら説明してくれました。社会教育委員が体験してみると、児童や生徒のように上手く動かせず、「子どもみたいに動かさない。説明するために、ずいぶん練習したんだな」と感心していました。

雨に強くするために、全体に柿渋を塗ってあります。

また、担ぐための木の部分は、軽くするために中を削ってあります。

(小学生の説明)



中学校の地域交流企画で足踏みミシンを体験しました。ミシンが動く時の音にはまりました。
(中学生の声)



今のものはボタン一つ押すだけで簡単に使えるけれど、昔のものは全部自分でやるところが面白い！
(小学生の声)



地域の方から昔の農具や民具のことを学んだ児童や生徒が、研修会では参加者に道具のことを説明する立場として活躍していました。社会教育と学校教育が連携することで、子どもが大人から学ぶだけではない、子どもも大人も互いに学び合う場が作られていました。